

防災指針の策定に向けた市民ワークショップにおける ご意見に対する市の考え方

- (1) 開催日 令和7年10月14日
- (2) 出席者 13名
- (3) 意見の数 19件
- (4) 意見への対応内訳

対応区分	件数	整理番号
指針に反映したご意見	7 件	2・6・7・8・12・17・18
趣旨を記載済みのご意見	5 件	1・3・5・9・13
参考としてお聞きするご意見	6 件	4・10・11・14・15・19
今後の検討課題となるご意見	1 件	16
合計	19 件	

※本件に記載のページ数は、別冊の防災指針を対象としたものです。

整理番号	地域	ご意見	市の対応	ご意見に対する考え方	頁
1		<ul style="list-style-type: none"> 京田辺市内で予想される主な災害は水害だが、北部エリアではあまり心配がないと思われるので、住民の水害に対する危機意識は低いと感じる。 	趣旨を記載済みのご意見	<ul style="list-style-type: none"> 本市の北部地域で居住誘導区域に指定している地域は主に高台に位置しているため、浸水想定区域には指定されていませんが、大規模盛土造成地が広い範囲で存在し、盛土内または盛土後方に住宅等が多数立地しています。このような場所では、定期点検を実施し、危険と判断された箇所については、府などの関係機関と連携しながら対策を検討していくこととしています。 	
2	北部地域	<ul style="list-style-type: none"> むしろ、地震が起こった時に自分たちで何ができるのか。災害発生後に助け合える地区コミュニティの強化が必要だと思う。 できれば全員自治会に入ってもらい、世帯の名簿が作成できれば非常時の安否確認が可能になり、助け合いができる。このような話し合いを自治会内ですること、自治会活動に参加する機会が少ない女性や子ども達にも防災に関する意識づけができるのではないかな。 	指針に反映したご意見	<ul style="list-style-type: none"> 役員の高齢化や自治会未加入者の増加により、自治会の活動が縮小し、地域コミュニティの維持が困難になりつつあります。災害発生時には自分や家族の身を自らで守る「自助」、国や自治体など公的機関による支援である「公助」とともに、地域や身近な人同士で助け合う「共助」が重要であり、実際に救助の多くは近隣住民によって行われることが多く、地域のつながりが命を守ることにつながることから、地域コミュニティの強化が大きな課題と言えます。 本市では、地域内の情報共有の円滑化や災害時の迅速な安否確認体制の強化を目的として、令和7年9月に事業者と「地域デジタル支援アプリ推進に関する協定」等を締結し、自治会連絡網アプリの区・自治会等への導入支援を行っています。 平常時においては、回覧板や行事案内などの情報発信をデジタル化することによって自治会役員や事務局の負担が軽減され、役員のなり手不足の解消が期待できるほか、アプリ内の掲示板を自治会内のコミュニケーションツールとして活用することで、多様な世代の方々に防災に関する意識を持っていただくきっかけになると考えています。 また、災害時には安否状況を全利用者で共有することができ、支援が必要な箇所が明確になり支援の輪が広がり、被災箇所の周知により危険箇所の予測にもつながることが期待できます。 	P70 P74
3		<ul style="list-style-type: none"> 災害が起こった後の助け合いも市民目線の防災としては大事だが、地域のコミュニティが薄くなっている現状があるので、防災について地域に広めていく機会が必要だと思う。 自治会の文化祭の時にローリングストック食料を用いて食事会（炊き出し）をしたり、運動会で防災をテーマにした競技を行うなどして、地域の防災活動に興味をもってもらい、災害時に自分たちもできることがあることを自治体内に周知したいが、自治会員の高齢化により実施することが困難になってきている。 	趣旨を記載済みのご意見	<ul style="list-style-type: none"> 整理番号2に記載のとおり、自治会連絡網アプリの導入支援に加え、自主防災組織活動の活性化に向け、活動費用の一部助成のほか、研修会や自主防災組織同士の交流会の開催等による支援を行っていますので、地域コミュニティの強化に資する取り組みにご活用ください。 	

整理番号	地域	ご意見	市の対応	ご意見に対する考え方	頁
4		<ul style="list-style-type: none"> ・防災上の困りごととして、市の巡回車による放送が聞こえない、緊急時の情報伝達の方法、スマートフォンを持っていない方々への伝達手段をどうすればいいのか、などがある。 ・垂直避難のことや避難経路が十分に広まっていない。要介護者や独居老人の避難をどうすべきなのかという困り事がある。 	参考としてお聞きするご意見	<ul style="list-style-type: none"> ・気象情報については、パソコンやスマートフォンだけでなく、テレビのデータ放送でも災害情報や避難所情報、交通やライフラインについての情報を入手することができます。 また、市のハザードマップには、洪水などの水害や土砂災害の危険が高まった場合に、事前に安全な場所に避難し、被害を最小限に抑えることを目的に、避難場所や情報収集の方法、平常時の事前準備や災害時の行動計画など、防災に役立つ情報を記載していますので、日頃からご家族や地域の方々で災害時の行動について話し合ったり、訓練を行うなど、もしもの災害に備えるよう心がけてください。 	
5		<ul style="list-style-type: none"> ・自治会では自主防災組織をつくっているが、今のところ十分に機能しているとは言えないように思う。 	趣旨を記載済みのご意見	<ul style="list-style-type: none"> ・自主防災組織の活動内容は地域ごとに異なり、訓練や回覧等の啓発活動を実施されている地区のほか、資機材や備蓄食料を購入して公民館などに保管するなど、一般的には目立ちにくい取り組みをされている地区もあります。 本市では、そのような活動費用への一部助成のほか、研修会や防災訓練の開催等により自主防災組織活動の活性化に向けた支援を行っていますのでご活用ください。 	
6	中部地域	<ul style="list-style-type: none"> ・防災タワーを建築してほしい。 ・高層マンションへの避難ができるように、市から管理者へ働きかけてもらうことなどが考えられる。 	指針に反映したご意見	<ul style="list-style-type: none"> ・本市では、木津川の氾濫時の浸水想定区域内において、逃げ遅れた場合の緊急的な垂直避難が可能な施設である「緊急一時避難場所」として、田辺東小学校を含めた5箇所を指定しています。 なお、河川氾濫の恐れについては、昨今では気象情報の精度が高くなっていますので、数日、数時間後の予報を注意し、早めの避難を呼びかけています。 ・本計画では、地区計画制度を活用し、浸水想定区域内で新たに市街地が形成される区域においては、工場、倉庫、事業所や公益的施設などを対象に、建築物の高さの最低限度を想定浸水深以上になるよう規制し、逃げ遅れた場合の緊急的な垂直避難が可能な施設の建築を誘導することで、周辺住人の命を守る取り組みを進めます。 	P77
7		<ul style="list-style-type: none"> ・木津川の氾濫やアンダーパスの冠水が心配。 	指針に反映したご意見	<ul style="list-style-type: none"> ・木津川が氾濫した際にはアンダーパスの冠水に留まらず周辺一帯が浸水することとなりますが、一方で、京都府管理河川の氾濫については、新西浜樋門・放水路、田辺排水機場の整備を行うことにより周辺地域の浸水リスクの低減に努めているところです。 また、薪新田辺線が緊急輸送道路に指定されたところであり、緊急輸送を確保するための整備が優先的に進められることとなります。 なお、局地的な豪雨等により薪新田辺線のアンダーパスが冠水した場合には、薪、田辺や河原地区を結ぶ代替ルートとしての機能を備えた都市計画道路大住草内線の整備を進めていく予定としています。 また、木津川等の氾濫により薪新田辺線を含む周囲一帯が浸水するような大規模災害が発生した場合であっても、国道307号が既に緊急交通路の予定路線に指定されており、一般車両の通行規制が行われることで、被災者の救難、救助や物資の輸送等の災害応急対策が円滑に行われるものと考えています。 別冊の防災指針52ページ 分析8の緊急輸送道路に薪新田辺線を追加するとともに、同75ページに緊急輸送道路の代替機能を備えた都市計画道路大住草内線の整備について追記します。 	P52 P75

整理番号	地域	ご意見	市の対応	ご意見に対する考え方	頁
8	中部地域	<ul style="list-style-type: none"> 日頃から自分たちでもできる防災として、溝掃除をして側溝からの溢水を防ぐこと、徒歩で避難ルートを確認し自主防災組織で共有することが考えられる。 	指針に反映したご意見	<ul style="list-style-type: none"> 幹線的な道路や水路、河川の維持管理は各施設管理者で行われますが、小さな道路側溝や水路の日常管理は、主に地域の方々をお願いしているところです。堆積した土砂の撤去や雑草の除草などの作業を、日常生活の中で積極的に実施していただくことが、排水機能を確保し、水路の溢水を防ぐこととなります。 また、環境美化に対するより一層の意識高揚を図り、よりよい生活環境づくりを推進するため、6月と9月に統一行動日を定め、市民・事業者・行政が一体となって、まちの美化活動を行う“クリーンアップ京田辺”市民一斉清掃を実施しています。 地域コミュニティが縮小するなかで、地域による清掃活動を一つの契機として、市と地域住民が連携し、地域全体で日常の維持作業に取り組むことで、良好な排水施設が保全されるとともに、地域コミュニティや地域防災力の強化にもつながるものと考えています。 本市では、洪水や土砂災害の危険度の高い地区において、安全に、安心して自主的に避難するために、地域住民が主体となって地域版防災マップ（マイ防災マップ）を作成しています。作成にあたっては、地域住民自らが、地域内の危険箇所を図上と現地調査（まち歩き）で点検し、避難所までのルートを決めています。また、災害時の地域の決めごとや避難の際に必要な情報の入手方法などについても住民会議で協議を重ね、マップに掲載していますので、もしもの災害に備え、日頃からご家族や地域の方々で災害時の行動についての話し合いや訓練にご活用ください。 	P71 P75
9		<ul style="list-style-type: none"> あらかじめ家庭内や地域で避難の際の決め事を周知、徹底すること、また災害発生後は隣近所への声掛けを徹底することなどにより、命が助かる可能性が上がる。しかし、助け合いの精神、地域住民の関係が希薄化しているのが心配。 	趣旨を記載済みのご意見	<ul style="list-style-type: none"> 本市では、市全域のハザードマップに加え、地域版防災マップ（マイ防災マップ）、ため池ハザードマップなどを作成し、配付しています。これらには、避難の方針や事前準備など、水害から身を守るために役立つ情報が記載されており、日頃からご家族や地域の方々で災害時の行動について話し合っていたり、訓練を実施していただくことを想定して作成しています。 整理番号2に記載のとおり、今後の地域コミュニティの維持については大きな課題ではありますが、自治会連絡網アプリの導入や自主防災組織活動への助成などを活用し、地域活動のなかで災害時における「共助」の重要性を認識していただく機会を設けていただけたらと考えています。 	
10	南部地域	<ul style="list-style-type: none"> 中山間地域は急傾斜地も多く、心配。 	参考としてお聞きするご意見	<ul style="list-style-type: none"> 中山間地域には土砂災害特別警戒区域及び土砂災害警戒区域が多数指定されており、旧集落の住宅や要配慮者利用施設等が立地しています。既存住宅を安全なエリアに移転を促す取り組みが必要であるとともに、避難態勢を充実されるための取り組みも併せて促進していくことが課題となっています。 なお、本件については主に居住誘導区域外での課題のため、本計画の策定にあたっては参考事項として取り扱いさせていただきます。 	

整理番号	地域	ご意見	市の対応	ご意見に対する考え方	頁
11	南部地域	・避難所である普賢寺小学校も過去に水没している。	参考としてお聞きするご意見	<ul style="list-style-type: none"> 普賢寺小学校に隣接して一級河川普賢寺川が流れており、小学校周辺は浸水想定区域に指定されていることから、地震の際は避難所に指定していますが、水害の際は避難所に指定していません。なお、地域防災計画では大雨が予想される場合、被害が発生する前にあらかじめ避難所へ避難していただくことを想定しています。 また、一部未改修区間があることから、管理者である京都府へ河川整備を要望しており、今後、護岸整備及び浚渫作業が予定されています。 なお、本件については主に居住誘導区域外での課題のため、本計画の策定にあたっては参考事項として取り扱いさせていただきます。 	
12		・高船地区には雨量計があるが、水取地区にはない。最近の線状降水帯などの集中豪雨もあるため、雨量計での管理をしてほしい。	指針に反映したご意見	<ul style="list-style-type: none"> 「顕著な大雨に関する気象情報」の発表基準を満たすような線状降水帯による大雨の可能性が高いことが予想された場合に、半日程度前から、気象庁のホームページ（「気象情報」）において、「線状降水帯」というキーワードを使って呼びかけられます。 なお、防災関係の取組情報をご活用いただけるようにまとめたページに、気象庁のホームページアドレス（URL）を追加しました。 また、整理番号4に記載のとおり、市のハザードマップに水害時に得られる情報と受信・取得方法が記載されていますので、併せてご確認ください。 	P79
13		・通学路が水没したり、池が決壊した場合に小学校が被災するおそれがあり危険。	趣旨を記載済みのご意見	<ul style="list-style-type: none"> 区、自治会ごとに、地域の特性や実情に応じて、災害時に地域住民が適切な避難行動がとれるよう、地域版防災マップ（マイ防災マップ）や避難行動・避難所運営マニュアル（個別）等を作成・更新しています。 防災重点農業用ため池に係る防災工事等推進計画に基づき継続監視を行うとともに、ため池が決壊する恐れがある、もしくは決壊した場合に迅速かつ安全に避難するため、ため池ハザードマップを活用し、地域住民に災害リスクの周知を図ることとしています。 	
14		・木津川の水位が上昇し、過去に逆流して内水氾濫があったため、木津川の川底の浚渫をしてほしい。	参考としてお聞きするご意見	<ul style="list-style-type: none"> 河川や下水道管理者等による治水に加え、あらゆる関係者（国・都道府県・市町村・企業・住民等）により流域全体で行う治水「流域治水」へ転換するため、淀川水系において「淀川流域治水協議会」が設置され、本市も構成員として参加しています。 協議会では、流域全体で早急に必要な対策の全体像である「流域治水プロジェクト 2.0」を策定し、国・府県・各自治体が一丸となってハード・ソフト一体の事前防災対策に取り組んでいます。 なお、木津川の川底の浚渫（河道掘削）については、「流域治水プロジェクト 2.0」に位置づけられているとともに、必要に応じ適正な維持管理を行うよう管理者である国に要望します。 	
15		・田んぼダムをうまく活用すれば、低い地域の浸水を止められるのではないか。	参考としてお聞きするご意見	<ul style="list-style-type: none"> 田んぼダムは、水田の落水口に流出量を抑制するための堰板や小さな穴の開いた調整板などの器具を取り付けることで、水田に降った雨水を時間をかけてゆっくりと排水し、水路や河川の水位の上昇を抑えることで、溢れる水の量や範囲を抑制することができ、下流の住宅地における浸水被害の軽減等を図る仕組みです。 しかしながら、本市では、水田の多くが住宅地よりも標高の低い下流側に広がっていることから、田んぼダムの効果は極めて限定的であると考えています。 	

整理 番号	地域	ご意見	市の対応	ご意見に対する考え方	頁
16	南部 地域	・マンション等に垂直避難できるようにするためには、避難時のセキュリティの問題を解決する必要があるのでは。	今後の検討課題となるご意見	・本計画では、浸水被害の防止・軽減を図ることを目的とした地区計画制度を活用し、床高を制限することで居住空間を想定浸水深以上の高さに設けることや、工場や商業施設などの高さの最低限度を制限することで、緊急時の一時的な避難場所として機能する高さの建築物にすることなど、逃げ遅れた方の命を守る取り組みを進めることとしていますが、施設の管理やセキュリティ、居住者の合意形成、法的責任の所在など具体的な課題がある共同住宅等については、今後検討していく必要があると考えています。	
17		・個人情報保護などがある中でどうやって情報を共有していくか、外国人の方とどうコミュニケーションをとるかは課題。自然発生的なLINEグループでのつながりや既存のコミュニティを活用できれば、コミュニティ同士がつながり、そのつながりが増えていくと伝達がスムーズになるのではないかと。	指針に反映したご意見	・自治会連絡網アプリでは、利用者の端末の言語設定にあわせて、画面周りや記事内容を自動翻訳される機能が搭載されており、外国人の方の自治会参加の支援や、日常のコミュニケーションづくり、緊急時の安否確認などに活用できるものと考えています。	P70 P74
18		・家の前の溝を掃除することは一人でもできる防災の一步。	指針に反映したご意見	・整理番号8と同様、日常の維持管理作業とともに、“クリーンアップ京田辺”市民一斉清掃を一つの契機として、市と地域住民が連携し、地域全体で日常の維持作業に取り組むことで、良好な排水施設が保全されるとともに、地域コミュニティや地域防災力の強化にもつながるものと考えています。	P71 P75
19		・自分の地域は大丈夫という先入観を捨て、自らが率先して避難し誘導するくらいがいい。	参考としてお聞きするご意見	・整理番号9に記載のとおり、災害が発生した際には事前に決めておいた避難計画に従い、早めの避難を心がけることが重要です。そのためには、事前に家族で避難場所や避難経路を決めておくことや、すぐに行動できるよう非常用持ち出しバッグを用意しておくことなどが考えられます。緊急時には、自分だけは大丈夫という思考に陥りがちですが、周囲への声掛けや安否確認などを率先して行っていただくことが地域を守るうえで重要なことだと考えています。	